

「島地川ダム水質改善検討委員会」第7回議事録

第7回「島地川ダム水質改善検討委員会」議事録要旨

日時：平成24年2月2日（木）14:00～16:30

場所：山口河川国道事務所別館3F 災害対策室

出席者：学識者

4名）中西委員長、脇坂委員、天野委員、南山委員

行政関係者

4名）山口県河川課 岩本委員、山口県環境政策課代理出席 藤津主査

中国地方整備局 嘉村委員、山口河川国道事務所 池田委員

事務局：10名

■議 事：以下のとおり

1. 開会
2. 挨拶
3. 委員長挨拶
4. 議事
 - 1) 第6回委員会 議事内容の確認
 - 2) 第7回委員会 議題の確認
 - 3) 島地川ダムの水質改善事業の進捗状況
 - 4) 高濃度酸素溶解装置の効果
 - 5) 今後の高濃度酸素溶解装置の運用方法（案）
 - 6) 水質モニタリング調査（案）
 - 7) まとめ
 - 8) 質疑
5. 委員会からの提言
6. 今後の委員会について
7. 情報公開について
8. 閉会

■質疑応答

1) 高濃度酸素溶解装置の効果について

【委員】

鉄等がほとんど沈降しているにも関わらず、未だに水温の逆成層（塩分成層）が生じている。何が溶け込んでいるのか。

【事務局】

第4回委員会で報告した内容であるが、底層で濃度が高くなる物質としてカルシウムがあげられる。

【委員】

それは酸素供給では減少しない物質である。今後必要に応じて調査してみるとよい。

【委員】

ヒ素の状態として価数まで調査しているのか。

【事務局】

ヒ素には3価と5価があるが、価数までの確認は行っていない。嫌気下で溶出するのは3価、酸化後には5価になって沈降していると考えられる。

【委員】

M-1でDOが非常に高くなる理由として、吐出し口と吸込み口が近いことが要因として考えられる。

【委員】

設置箇所が最善であるかどうかは検証しているか。

【事務局】

水深が必要であるのでM-1に設置しており、M-3でもDOが上昇していることから必要な効果は達成しており、装置の構造や場所に問題はなかったと考えている。

【委員】

吐出し口と吸込み口を離すとか、頻繁に高さを変更するなど、今後の改善の余地はあるか。

【事務局】

当面の運用の結果によっては、改善を検討したい。

【委員】

弾力的な運用をしてほしい。

2) 今後の高濃度酸素溶解装置の運用方法（案）について

【委員】

ヒ素の含有量を定期調査に追加して行うわけであり、今後の調査に底質も記載するべきだ。

【事務局】

底質調査もモニタリングとして追加したい。

【委員】

魚類に蓄積されるヒ素に留意すべきだ。

【事務局】

河川水辺の国勢調査の中で、採捕された魚類に体内に含まれるヒ素を調査したい。

3) 議事のまとめ

【事務局】

- ◆ 「まとめ」については、事務局（案）で了承する。
- ◆ 高濃度酸素溶解装置の運用は、事務局案を原則とし、今後も水質等のデータを取得しつつ、弾力的に運用すること。
- ◆ ダム湖内に沈殿した物質の挙動を把握することは重要である。このため“底質調査”を「モニタリング調査」として位置付ける。なお、実施に関しては、「定期水質・底質調査」で行うことで差支えない。

4) 委員会からの提言

【委員会】 別紙に示すとおり、委員会から提言を行う。今後の島地川ダムの維持管理の際に留意されたい。

5) 今後の委員会について

【委員会】 今回をもって島地川ダム水質改善検討委員会は閉会とする。

6) 情報の公開について

【委員会】 事務局説明で了解。

会議資料、議事録は委員に確認後、事務所HPに掲載する。

以 上